
報告者名	滝澤 克彦	被調査者生年	1931年(男)
調査者名	滝澤 克彦	被調査者属性	花卉農業
補助調査者	なし		

本調査報告は昨年度調査(C-2)の補足およびその後の状況に関するものである。

部落の組織

本家、別家の関係から成り立つ同族がイチゾクと呼ばれ、集落の生活のあらゆる場面で重要な意味をもっている。イチゾクとは別に、隣組というのがありいわゆる葬式組である。新浜には4つあり、こちらも様々な決めごとに関わってくる。

圃場整備などさまざまなことをめぐって対立などがあったが、3年くらいの年月をかけてまとめた。何かをめぐって意見の違いや対立などがあっても、多くは部落全体の意志としてまとめあげられる。

祭礼について

新浜集落では、蒲崎と同じ日に共同で行われる湊神社の祭礼と新浜だけで行われる神武天王社の祭礼がある。湊神社の祭礼は3月第2日曜に行われるが、神武天王社の祭日は旧暦の3月23日である。震災によって祭は中断しているが、神事は継続して行われている。

祭の際には家の角にある石碑にも料理が供えられる。それらは古いお墓の名残だという。かつては屋敷内の西南の角にお墓があった。

集団移転

復興団地へは基本的に部落ごとに集まることになっている。しかし、必ずしもそうでなくてはならないというわけではない。

その他

震災後の寄り合いは頻繁にあり、仮設の集会所を使って行われる。

市からの要請や連絡、また予算が下りてくるようなことがあると、そのたびに行われる。話し合うことはいくらでもある。

大切なことは老人や女性などを働かせることであると考えている。



写真1 神武天皇社、隣の公会堂は取り壊された。



写真2 新浜の風景